



此交據所條例之對不條例者以之末尾
 於大藏省大書之其中掲載之件皆係都上下
 一假二通レテ道... 復行... 見...

大正十一年四月
 大隈侯爵郵寄贈

能紙幣類...

設之儀...

各本添別紙之通以申發及唱客年
 九月中以在之紙之照會為与誤考仕後

卿

大隈侯爵郵寄贈

大正十一年四月



卿

此交榜所條例既之、對之條例、若以之末尾、
 於大藏省ト大書シ、其中掲載スル、皆條都テ上下
 一綴ニ通シテ、遵奉履行スル、規則法制ナルハ、改テ中
 無之、任得ハ、文張官ニ於テ、官初之ヲ擬定頒布シ
 然後銀行先モ、之ニ照準シ、創設スル、其交榜所
 條例、如キモ、ヲ取調願出、儀體敷トシ、順序ト
 云ヒ付シモ、吾當ヲ得ル、猶才國ニ銀行條例頒布アリテ
 若銀行ノ創設セシト、同一歸スルベシ、然レ其當キ條
 付テ、既之、順序錯乱此條例銀行ヲ如此、私擬
 以口耳ノ官ノ為メ、計ルニ、然レキ、改辭(即チ右條例
 制定ノ分、考據、為メ、置ク、杯ト、言フ、以テ、一
 之、官、引揚ケ、進テ、潤色改正ホ、上耳、之ヲ頒布ス
 ル、手續、從事ス、如カス、故ニ、此條例、其他、此儘
 巡議、供スベカラザル、ニナラズ、今、紙幣、案、
 十分改正ホ、上正院、ホ、申案、并、銀行、ハ、御達案、
 副呈、之、
 此條例、中、官見、日、撰、
 此條例、中、官見、日、撰、
 此條例、中、官見、日、撰、

大正十一年四月
 大隈侯爵郵寄贈

紙幣類
 三三三三三三

改之儀、
 例及損益、
 及唱客、
 為乃、

貳百拾五

紙幣



明治八年三月十日

卯

五

五

國債類

支那上海之於牙交換所設立之儀二月廿
一國之銀行之交換所條例及損益按年
各亦添別紙之通以申發及唱客年
九月中以在之紙之照會為其換考仕後

得能紙幣類

三三三三

大正十一年四月

安右文換所設立之儀三月十八日客年中
日銀行の波留地、実況探損致名各事
各以兵未々其得失確然豫定之難キ
ヲ以テ其ノ條例モ亦々試檢年限ヲ設ケ
先ツ其見込ヲ以テ施行各事ニテ因
地口百全名可易之規則ト申ベキ訳ニモ無
之候間現在右於今之慮ニハ別ニ之ト先
ツ試檢トシテ之九可成之可成カ尤ト申
各中定住銀貨紙幣交換之割合
銀貨百圓ニ有紙幣九拾五圓ニテ之ハ波留

ト度昔掲載有之損益採算各中亦モ其
差額ヲ銀行ノ所得ニ致度取ニ其見
各以兵未々其得失確然豫定之難キ
レテ之採算ノ其成採算ニテハ全ク政府自
リ之カ價格格ヲ低シ其品位ヲシテ賤ニカラ
シムル、次第ニ其當リ具日内外人民ニ
之ヲ識スルヲモ竟ニ之ヲ辨解スルヲ辭ナ
ク其ノ弊害モ亦々測ルベカラガレ波留
各然レ此我銀貨大ニ支那地方ニ散布
ニ其流通宜シキヲ得ルニ至ラハ自然

農銀之賜通ヲ整塞之其價格隨ラ騰
 貴スルニ至リ我々府之鴻益之レヨリ
 亦生シテ申義ハ其内ハ後利ヲ抗半シテ
 銀行ニ由給賜ハ其内ハ後利ヲ抗半シテ
 ハ立ニ則敷因テ別紙揚第各中九寸五
 圓割合ニ名義ヲ改メ更ニ改割トシテ先
 ツ紙檢年限州銀貨輸出ニ分ニ限リ百
 圓ニ有レド割合ヲ以テ給与スル
 可然我因テ條例中名額今ニ廢スルハ
 爰ニ通知シテ其内右ノ後裁ニ由テハ

正院ハ且申揚第銀市ハノ由ニ其不
 及酒其内申也

大蔵省

三ノ第百三拾八號

三月四日



支那上海ニ於テ交換所御設置可
相成ニ付右取扱向當銀行江御申
付可被下候間承諾上ニ銀行條
例ニ倣ヒ方法規則精細取調御
寮江可申上旨昨七年九月十三日御
本省ヨリ御下命有之候處折節右
御設立之都合探知之為ニ兼テ御

東京

高橋

大新

本省之御指揮ニ從ヒ當銀行ヨリ
派出之人負テ有之候ニ付右之者共實
地探討之模様詳知之上條例其
外取調度ト其時々書面ヲ以テ右
取調延引之段ハ申上置且派出之
者實地探討之報告書モ其都
度進呈仕置其後昨七年十二月
廿四日右派出之者取着ニ付報告

書之次第モ夫々面談及ヒ豫メ御
設立可相成都合モ臆案出来候ニ
付別紙條例草案ヲ以テ取扱方
順序並當銀行ニ於テ擔保之制限
等奉申上候

右交換所御設立ニ付向後之得失
審案候處差向候處ニテハ圓銀銀
貸支那地方ニテ交換之價位モ充

分ニ無之其上上海テールト横濱洋
 銀為替モ別紙平均表々通ニ甘通
 常々交換ニ於テハ圓銀銀貸輸送
 之入費ヲ差引候ハ何カ贏餘モ無之
 哉ニ候得共元來支那地方ハ各總テ
 ール銀之實物ト上海規銀ト唱レ候
 虛名之貨幣ニテ商業々流通ラ
 辨シ居恰モ御一新前大阪銀相

場有之候節々如ク而シテ本地又外
 國出店之銀行モ當時大阪府下之
 掛屋ト唱候銀舗ト同シク夫々預リ
 券發行致シテール之實物ハ詰メ一
 種之貨物ト相成真成々々通用貨幣
 ハ多ク銅錢而已ラ以テ相辨シ候景狀
 ト被察候間此際御國銀貸ラ以テ右
 流通間之媒介ニ供シ候ハ支那人

ハ素ヨリ文字モ了解致シ候ニ甘他
 之銀片ヲ以テ瑣少之決算ヲ遂候
 卜數等之便宜信憑ヲ相増シ其
 通用モ追々擴伸可致ト奉存候
 間今般交換所御設置之上ハ爲一
 此銀貨流通ヲ以テ主務ト致シ精
 多ール對當之價位モ相進候様
 取扱申度彌以右目的相達充

分之擴伸ヲ得候ハ何分大國ニ
 其商業物産ニ相應ニ有之候
 國柄ニ甘御國ニテ御鑄造之銀貨
 ハ不殘輸送候トモ引足不申程場
 合ニ相成御体裁上ニテモ理財ニ於テモ
 實以大効有之候儀ト奉存候加
 銀貨右様之信用ヲ得候ハ我國
 銀ニ於テモ彼墨銀同様之通用

ヲ得米國新貿易銀ヲ凌駕致シ
 候ハ必然ニテ是以不容易大幸福ト
 奉存候乍併右兩件之目的ヲ相
 達シ候ハ將來之儀ニテ目今之計算
 ニ於テハ何分損益之較計ヲ失シ候
 ニ甘通常高估之資金融ニテ維持仕
 兼候儀ト奉存候間別紙條例
 中資本御交付之儀申上候儀ニ

御座候

別紙條例中銀貨輸出之價位ヲ紙
 幣對當之積申上候得共彌以右様
 彼國地方江散布候上ハ決テ御國
 江相戻リ申間敷縱令相戻リ候
 トモ彼我通商上ニ關シ候ニ甘詰リ定
 位之御割合ハ全ク官府之御利益ニ
 相成候間此御利益ヲ折半シ右

輸出ト相成
幣九拾五圓

東京第一國銀行
明治八年三月三日

被下度然時、銀行、然令交換、
利益無之候トモ右差減ニテ利益ヲ
得候ニ付精々此交換ヲ盡力候様相
成可申奉存候右ニ付損益按算中
其差減ヲ銀行之所得ニ相掲置
申候

右ニ交換所御設之儀ニ付當銀行
案之件々奉申上候間交換所事
務取扱方之儀、別冊條例御取捨
之上更ニ御下命被下度且又右銀
貨新紙幣交換之儀モ何卒試
驗中御許可被下度候依之別冊
書類相添此段奉申上候也

明治八年三月三日

輸出ト相成候分ニ限リ百圓ニ付紙幣九拾五圓之割ニ銀行江御下度被下度然時ハ銀行ハ縱令交換上利益無之候トモ右差減ニテ利益ヲ得候ニ付精々此交換ヲ盡力候様相成可申奉存候右ニ付損益按算中ニ其差減ヲ銀行之所得ニ相掲置申候

本行
 亦知
 方ト

右ニ交換所御設之儀ニ付當銀行
 志案之件々奉申上候間交換所事
 務取扱方之儀ハ別冊條例御取捨
 之上更ニ御下命被下度且又右銀
 貨新紙幣交換之儀モ何卒試
 驗中御許可被下度候依之別冊
 書類相添此段奉申上候也

明治八年三月三日

候分ニ限リ百圓ニ付紙
之割ニ銀行江御下渡
銀行ハ縱令交換上
モ右差減ニテ利益ヲ
此交換ヲ盡力候様相
候右ニ付損益按算中
銀行之所得ニ相掲置

設ク之儀ニ付當銀行
奉申上候間交換所事
候別冊條例御取捨
命被下度且又右銀
交換之儀モ何卒試
被下度候依之別冊
此段奉申上候也
三月三日

如左報
下候幣ノ交換割
モ改メ條例中ニ掲
方ト為ル

東

第一國立銀行

得能紙幣頭殿

第一國立



上海交換所條例

大正十一年四月
大隈侯爵邸書贈

上海交換所條例

新貨幣及圓銀ヲシテ廣ク支那地方ニ流通セシメ彼我ノ通商ヲ昌盛ナラシムル為メ上海ニ於テ交換所設置ノ事ヲ決定シタルニ付大日本大藏省ニ於テ右交換所處務ノ順序ヲ制定シタル條々如左
第一條 交換所設置ノ手續ヲ明ニス

東京

第一回

第一節此交換所ハ大藏省紙幣寮ノ命ヲ奉シ第一國立銀行ニ於テ其事務ヲ擔當ス可シ

第二節交換所設置ノ地ハ支那上海ニ於テ適宜ノ場所ヲトシ銀行出店ノ名ヲ以テ之ヲ開業ス可シ

第三節交換所ノ主務ハ我新貨圓銀ヲ普ク支那地方ニ流通セシメ以テ

彼我通商ノ便益ヲ増シ且常ニ交換價格ノ景況ヲ考察シテ我カ新貨圓銀ト支那地金銀及洋銀等ノ交換ヲ為シ漸ク其流通ヲ擴伸スル事ニ盡カス可シ

第四節交換ノ景況ニヨリテハ此交換所ニ於テ廣東香港其他ノ地方

ノ都合ヲ謀リ時々出張シテ交換ヲ取扱フコトアルヘシ

第二條 交換所設置ノ年限ヲ明ニス

第一節 此交換所ハ創立ヨリ五ケ年ヲ以テ試験ノ年限トシ其中永續ノ目的充分ナレハ銀行本店ノ營業中ハ之ヲ取續ケコトヲ得ヘシ

第二節 若右年限中又ハ満期ノ際ニ於

テ

テ永續ノ目途ナケレハ次條ノ手續ヲ以テ此交換所ヲ鎖店スヘシ

第三條 交換所資本金定度及其擔保手續ヲ明ニス

第一節 此交換所ノ資本金ハ金貳拾萬圓ト定メ大藏省ヨリ之ヲ第一國立銀行本店ニ交付シ銀行本店ヨリ交換所ニ送致シテ其資本金ニ充ツヘシ但右貳拾萬圓ノ外銀行

本店ヨリモ之ヲ送致スルハ隨意
タルヘシ

第二節 右ノ金額ハ交換所設置ノ為メ
銀行ヨリ派出ノ際圓銀ト銀
貨トニテ之ヲ交付スヘシ

第三節 銀行本店ヨリハ此資本金ノ抵
當トシテ其半額拾萬圓丈ヲ
金札引換公債證書ヲ以テ試

驗年限中之ヲ大藏省ニ納メ
置ク可シ尤モ此抵當ヨリ生スル
利足ハ勿論銀行本店ノ所有
タル可シ

第四節 此資本金額ハ交換所事務試
驗ノ年限中ハ大藏省ヨリ無利
息ヲ以テ銀行本店ニ其運用
ヲ專任スヘシ尤モ右年限中ニ

テモ此交換所設置ニ付キタル
 諸経費ヲ其利益金ニテ充分
 支消セシ上尚将来利益ノ目
 的アルニ於テハ大蔵省ハ期ヲ定メ
 テ其資本
 相當ノ株
 ノイヲ銀行本店ニ命スヘシ

第五節 銀行本店ハ此交換所ノ事務

取扱ヲ擔保スルニ付若右試験
 中不時、災厄ニ罹リテ資本金
 ヲ損失スルカ又ハ派出ノ者ツマ
 引負フカ又ハ其運用ノ方法便
 宜ヲ得スシテ交換所ノ諸経費
 支消ニ不足スル氏都テ銀行ノ
 責任トシ試験年限ノ満期ニ
 至レハ必ス此資本金額ヲ大蔵

テモ此交換所設置ニ付キタル
 諸經費ヲ其利益金ニテ充分
 支消セシ上尚將來利益ノ目
 的アルニ於テハ大藏省ハ期ヲ定メ
 テ其資本金ヲ返納セシムルカ又ハ
 相當ノ抵當ヲ出シ且利息上納
 ノイラ銀行本店ニ命スヘシ

第五節 銀行本店ハ此交換所ノ事務

又ハ相
 相當ノ

取扱ヲ擔保スルニ付若右試験
 中不時ノ災厄ニ罹リテ資本金
 ヲ損失スルカ又ハ派出ノ者ツモ
 引負フカ又ハ其運用ノ方法便
 宜ヲ得スシテ交換所ノ諸經費
 支消ニ不足スル氏都テ銀行ノ
 責任トシ試験年限ノ満期ニ
 至レハ必ス此資本金額ヲ大藏

交換所設置ニ付キタル
賈ラ其利益金ニテ充分
セシ上尚將來利益ノ目
於テハ大蔵省ハ期ヲ定メ
又本金ヲ返納セシムルカ又ハ
抵當ヲ出シ且利息上納
不行本店ニ命スヘシ
本店ハ此交換所ノ事務

又ハ相当ノ抵當ヲ出シテ又ハ資本を極高
相当ノ抵當ヲ出サシメト改メテハ

擔保スルニ付若右試験
好、災厄ニ罹リテ資本金
入スルカ又ハ派出ノ者ツマ
カ又ハ其運用ノ方法便
スシテ交換所ノ諸経費
不足スル氏都テ銀行、
シ試験年限、満期ニ
ス此資本金額ヲ大蔵

省ニ返納シテ抵當品ヲ受取ルヘ
シ若又其期ニ届リ此返納ノヲ
怠レハ先ツ此交換所ヲ鎖店
セシメ抵當ノ金札引換公債
證書ヲ没入シ尚不足アレハ交
換所ノ所有物又ハ銀行本店
ノ所有物ヲ取上ケテ此返納ヲ
遂ケシムヘシ但此損失モシ兵亂

又ハ航海中防禦スヘカラサル賊
難ノ類ニ生スル時ハ此限ニアラス

第六節故ニ銀行ハ右ノ資本金ヨリ生スル
利益ヲ以テ當初交換所設置
ニ付キタル一切ノ諸経費ヲ償辯
シ且年々交換所ノ費用ヲ支
消シテ尚贏餘アレハ其分丈ケ
ハ試験年限中タリ氏之ヲ大蔵

省ニ當初交付セラレタル資本
金額ヲ減スヘシ

第七節 銀行ハ前條ノ方法ヲ以テ試
驗年限中又ハ満期ニ至リ大
藏省ヨリ交付セラレタル資本
金額ヲ皆納スレハ此交換所ハ
全ク銀行ノ所有ニ改シ其意
ニ任セテ之ヲ營業スルヲ得可シ

第四條

交換所資本金運用ニ手續ヲ明ニス

第八節 交換所ニ於テ資本金運用ノ方
法ハ大藏省ヨリ交付セラレタル
圓銀銀貨ヲ以テ時價ノ景況
ヲ見計ヒ之ヲ上海通用ノ規
銀ニ交換シテ確實ナル物品抵
當ヲ以テ貸附金ヲ為スラ常
務トシ且為替ノ模様ニヨリテ

其規銀ヲ以テ橫濱神戸等
江洋銀為替ヲ為シテ漸次
我圓銀銀貸ヲ彼地方に送
致スルヲ心掛クヘシ

第二節交換所ニ於テ貸附金ヲ為ス高
額令何様抵當品正確ナリ
氏一人又ハ一口ノ高資本金額十
分一ヲ限リトスヘシ

第二節交換所ニ於テ抵當貸金ヲ為
ス物品ハ商業上必要ナル木綿
砂糖等ノ類ニテ常ニ賣買速
ナルモノニ限ル可シ且其貸附ノ
期限及ヒ利息ノ約束等ハ土
地ノ慣法ニ從フヘシト云氏可成丈
ケ其期ヲ短縮シ其利息ヲ
低下ニス可シ

第五節 上海為替ノ景況ニヨリテ横濱
 又ハ神戸其他ノ地方ニ為替ヲ
 取組ムニハ交換所ヨリ之ヲ銀行
 本店ヨリ通達シ其為替金ハ本
 店ニ受取り其申請ニ從テ代
 リ圓銀銀貸ヲ交換所ニ送
 致スヘシ

第五節 右為替ノ取組方ハ洋銀價

格ノ計算ニヨリテ圓銀銀貸
 ヲ支那地方ニ送致流通スル
 ヲ要務ト為スト云凡其時ノ都
 合ニヨリテハ彼我高估ノ送致
 スヘキ金額ニ依リテ此為替ヲ
 取組ムトテ勉ム可シ

第六節 大藏省ノ都合ニヨリテ歐米
 諸國ニ送致スル官金アルハ横

濱洋銀相場ト歐米貨幣
 ト相場ヲ見計ヒテ之ヲ銀行
 本店ニ命シ上海交換所ニ
 於テ規銀ヲ以テ其為替ヲ取
 組ミ其金額ハ圓銀銀貨ニ
 テ銀行ニ受取り之ヲ交換所
 ニ送致シテ振替為替ヲ為シ
 歐米諸國ノ貨幣ニ換ラハ

地ニ於テ渡シ方ヲ為ス
 可シ

第五條 交換所ニテ預リ券發行ノコトヲ明ニス

第節 交換所營業ノ模様ニヨリテハ

最初大藏省ヨリ交付セラレタ
 ル圓銀銀貨ヲ以テ洋銀又ハ
 規銀ニ交換シ之ヲ準備トシ
 テ上海ニアル歐米各國銀行ヨ

リ發行スル例ニ倣ヒ其地限リ
 ノ預リ券ヲ發行スルコトアル可シ
 第三節此發行スル規銀洋銀ノ預リ
 券ハ試驗年限中ハ拾五萬圓
 迄ノ實額ヲ限リ其準備止金
 ハ發行預リ券高十分ノ七八分
 ス交換所ニ格護シテ常ニ其
 交換ニ差支ヘサル様ニスヘシ

第三節此預リ券ノ種類ハ規銀五テ
 貳テール五テール拾テールノ四種洋

銀壹弗五弗拾弗貳拾弗ノ
 四種トシ

幣寮ノ

ラ昔トシ銀

ヘシ

第四節追テ新貨圓銀ノ流通支那

Handwritten notes in smaller characters, likely bleed-through or supplementary text.

リ發行スル例ニ倣ヒ其地限リ
 ノ預リ券ヲ發行スルコトアル可シ
 第三節此發行スル規銀洋銀ノ預リ
 券ニ試驗年限中ハ拾五萬圓
 迄ノ實額ヲ限リ其準備止金
 ハ發行預リ券高十分ノ七八ニ
 ス交換所ニ格護シテ常ニ其
 交換ニ差支ヘサル様ニスヘシ

第三節此預リ券ノ種類ハ規銀ニテ
 貳テール五テール拾テールノ四種洋
 銀壹弗五弗拾弗貳拾弗ノ
 四種トシ其製造ノ格好等ハ紙
 幣寮ノ指揮ニ從ヒ極テ精緻
 ラ旨トシ銀行ニ於テ之ヲ取扱フ
 ヘシ

第四節追テ新貨圓銀ノ流通支那

其製法
 其紙
 ヲ製
 紙幣

スル例ニ倣ヒ其地限リ
分ヲ發行スルコトアル可シ
ル規銀洋銀ノ預リ
以年限中ハ拾五萬圓
額ヲ限リ其準備止金
預リ券高十分ノ七ハ必
所ニ格護シテ常ニ其
左支ヘサル様ニスヘシ

ノ種類ハ規銀ニテ
五テール拾テールノ四種洋
五弗拾弗貳拾弗ノ
其製造ノ格好等ハ紙
指揮ニ從ヒ極テ精緻
銀行ニ於テ之ヲ取扱フ
貨圓銀ノ流通支那

其製造以下ノ文左ノ通及ボ方ニ於テ
其紙質糸紋極テ精緻ヲ尽シ紙幣寮ニ於テ之
ヲ製造シ以銀行ニ下渡スルニ其製造ノ入費ハ
紙幣寮ハ指揮ニ從ヒ紙幣力ヨリ之ヲ収ムルニ

地方ニ擴伸スレハ交換所ニ於
テハ圓銀銀貨ノ預リ券モ發
行スルヲアルヘシ但シ之ヲ發行スル
ニ其時

都合トシ

ニ具陳シ

之ヲ取扱

第六條

交換所於テ定期當座預リ金ヲ為スルニ於テ

Handwritten notes in cursive script, likely explaining the details of the exchange process or the specific conditions of the sixth article.

第一節 交換所ニ於テハ内外人民ノ均ニ

定期當座ノ預リ金ヲ為

スラ得可シ尤モ其利息ト期

限トハ土地ノ模様ニ從ヒ便宜

之ヲ取究メ預リ證書面江明

亮ニ其約束ヲ掲ケ置ク可シ

第二節 右預リ金ノ高ハ試驗年限中ハ

資本金額ノ高迫ラ限リトシ縱

地方ニ擴伸スレハ交換所ニ於
 テハ圓銀銀貨ノ預リ券モ發
 行スルコトアルヘシ但シ之ヲ發行スル
 ニ其時ノ景況ト其發行ノ
 都合トヲ銀行ヨリ紙幣寮
 ニ具陳シ其許可ヲ得テ後
 之ヲ取扱フ可シ

第六條

交換所於テ定期當座預リ金ヲ為スルニ於テハ

第一節 交換所ニ於テハ内外人民ノ均ニ

定期當座ノ預リ金ヲ為
 スラ得可シ尤モ其利息ト期
 限トハ土地ノ模様ニ從ヒ便宜
 之ヲ取究メ預リ證書面江明
 亮ニ其約束ヲ掲ケ置ク可シ

第二節 右預リ金ノ高ハ試驗年限中ハ
 資本金額ノ高迫ラ限リトシ縱

其許
 其
 後

伸スレハ交換所ニ於
銀貨ノ預リ券モ發
ルヘシ但シ之ヲ發行スル
景況ト其發行ノ
銀行ヨリ紙幣寮
其許可ヲ得テ後
フ可シ

所於テ定期當座預リ金ヲ為スルニ於テハ

於テハ内外人民ノ均ニ
期當座ノ預リ金ヲ為
シ尤モ其利息ト期
此ノ模様ニ從ヒ便宜
先ノ預リ證書面江明
約束ヲ掲ケ置ク可シ
高ハ試驗年限中ハ
額ノ高迫ヲ限リトシ縱

其許可ヲ得テ後又下
其許可のヲ得テ後之ヲ製
スルニ而シテ紙幣寮ニ於テ
之ヲ製不造スル
係テ前編ニ準ルニハシ

令何様ノ信用ヲ得テ預ケ方
 ヲ望ム者アリトモ此額ヲ超シハ
 交換所ハ之ヲ預ル可ラス但シ
 送為替ヲ以テ一時其金額ヲ
 受取り之ヲ他方ニ渡スノ類
 ハ此預リ金額内ニ算ス可ラス

第七條

交換所於官署出納向テ取扱フ手續ヲ明ニス

第一節上海領事館出納御用其他

臨時駐劄スル官真ノ出納ハ
 ハ勿論都テ大藏省ヨリ支
 那地方ニ於テ仕拂フヘキ金
 銀又ハ受取ルヘキ金銀ハ之ヲ
 銀行本店ニ達シ此交換所ニ
 於テ其取扱ヲ為サシムヘシ
 第二節右ノ取扱ヲ為スニ付
 銀行本店
 又ハ交換所ニハ為替打歩外

別ニ其手數料ヲ渡サルヘシ
 尤モ領事館又ハ臨時駐劄
 官負ノ出納取扱ハ當初相
 當ノ約束ヲ設ケテ瑣少ノ手
 數料ヲ交付ス可シ

第三節 然テ交換所ノ申請ニヨリテ支
 那地方ニ輸出スル圓銀銀貨
 ハ銀行本店ヨリ之ヲ大藏省

ニ申立テ新紙幣ト交換シ

最初交換セラル、實
 本金ハ此例ニアラス 銀行本店ヨリ

之ヲ送致スヘシ

第四節 右ノ交換價格ハ圓銀百圓ニ
 紙幣百零壹圓銀貨百圓ニ
 紙幣百圓ノ割ヲ以ラシ支那
 地方流通ノ模様ニ從ヒ交換
 所ヨリ申請ニ任セラシ之ヲ交

付スヘシ

第八條

交換所事務計算等検査手續ヲ明ニス

第一節 交換所事務取扱方及諸
計算向ノ實地検査ハ上海
駐劄ノ領事官之ニ專任シテ
毎月一度又ハ兩度宛實際ノ
模様簿記ノ順序現有金、
多寡等ヲ詳細ニ點檢調

査スヘシ

第二節 右検査シタル次第及諸勘定
向ハ其時々計表又ハ調書ヲ
以テ交換所ノ主任調印ノ上
之ヲ領事官ニ出シ領事官ハ
其相違ナキコトヲ認ムレハ尚之ニ加
印シ検査シテ正シキモノ
ナリノ字ヲ書入ルヘシ速ニ其書類
ヲ紙幣寮ニ遍送スヘシ

第三節 交換所ノ主任モ其検査ヲ受
 ケタル手續及テ領事官ニ差
 出シタル書類ノ写ヲ以テ速ニ之
 ラ銀行本店ニ通達スヘシ
 第四節 大蔵省又ハ紙幣寮ノ考案
 ニヨリテ更ニ詳密ナル取調ヲ
 為サントセハツテ領事官ニ達
 シテ臨時ノ検査ヲ為サシム可

26

シ但此臨時検査ヲ為セン時
 モ其計表其外ノ差出方ハ
 都テ第一節第二節ノ手續
 ニ従フ可シ
 第五節 若此検査ニ於テ交換所ノ事
 務取扱向此條例ニ抵触ス
 ルコトアレハ領事官ハ速ニ其事
 務取扱方ヲ差留メツテ紙

幣寮ニ通達シ銀行本店ヨリ相當ノ人負テ派出セシメ其者ト立會ノ上ニテ交換所ヲ鎖店シ諸勘定向ヲ調査シテ其決算ヲ遂ケシム可シ

第六節然リト云凡領事官ハ此検査ヲ為ス其右ノ抵觸ハ第一預

リ券發行高ニ對スル準備金ノ貯有高制限ニ相當スルヤ及ヒ貸附金ノ抵當品正確ニシテ其制限ノ定度ヲ失ハサルヤヲ要旨トシ此兩件ニ付テ不都合ナク只尋常簿記計算ノ差違等ノ小過失ナレハ之ヲ改正シテ條例ニ照

準セシムル迄ニテ紙幣寮江ノ
通達ニハ及ハサルヘシ

第七節 交換所ノ主任ハ其抵觸シ
タル條款ニ於テ尚辯解スヘ
キトアレハ 詳明ニ其手續ヲ
銀行本店ニ通達シ 銀行
本店ヨリ之ヲ紙幣寮ニ上
申シ其都合ニヨリテハ紙幣

寮ヨリ相當ノ官負ヲ派出

シテ更ニ精細ノ検査ヲ為

シ之ヲ紙幣寮ニ通達シ

再應審ヲ乞フアルヘシ

第八節 右ノ派出調査ニヨリテ交換所ノ
所為此條例ニ抵觸セサルノ
辨解ヲ得レハ別ニ其業ヲ鎖
スニ及ハサルニ付 銀行本店ヨ

リ派出者ハ紙幣寮派出官員又ハ領事官ニ稟議シ相當ノ處置ヲ為シテ其業ヲ永續スヘシ

第九條

交換所ニ預リ券引換又預金返却差支時稟明ス

第節 交換所ニ於テ若シ預リ券引換方又ハ預リ金返却為替金ノ渡シ方ヲ怠リ内外人民

29

ヨリ其次第ヲ領事官ニ上訴スルコトアレハ領事官ハ速ニ交換所ノ事務ヲ差止メ事實交換所ノ不都合タレハ之ヲ紙幣寮及銀行本店ニ通達シ銀行本店ヨリ派出セシメテ交換所鎖店及諸計算向ノ取纏メヲ為サシム可シ

第三節領事官ハ右ノ通達ヲ為セシ
 上ニテ速ニ交換所一切ノ計算
 ヲ點檢シテ交換所ノ貸附
 金ハ早々取立方ノユ夫ヲ為
 サシメテ預リ券預リ金ノ類ハ
 精々渡シ方ヲ為シ其不足
 レハ銀行本店ハ通達シテ之
 ヲ償辨スヘキ手續ヲ為スヘシ

3

第三節若銀行本店ニ於テ其不足
 金ノ償辨ヲ為シ得サル時ハ
 紙幣寮ハ兼テ銀行本店
 ヨリ大藏省ニ差出シタル金
 札引換公債證書ヲ賣拂
 ハシメ其金ヲ以テ此償辨ニ
 充ツ可シ

第十條 交換所簿記計算ノ一ヲ明ニス

第貳節 交換所簿記計算ハ都テ
 銀行本店ノ規則ニ照準シ
 毎日卒業ノ後其日迄ノ出
 納総差引ヲ総勘定元帳
 ヨリ抄記シタル計表及日々
 現有金ノ計表ヲ作リ其
 用所ニ蔵メ置クヘシ
 第參節 毎水曜日ニハ交換所ノ一任ハ

諸帳面及現金等悉ク調
 査シテ其點檢シタル處ノ計表
 ヲ作り之ヲ銀行本店ハ逋
 送スヘシ

第參節 毎月實際報告ハ銀行本店
 ヨリ紙幣寮以上呈スル体裁
 ニ從ヒ翌月
 副二枚ヲ以

銀行本店ヨリ紙幣寮以上呈スル体裁ニ從ヒ翌月副二枚ヲ以テ送スヘシ
 諸帳面及現金等悉ク調査シテ其點檢シタル處ノ計表ヲ作り之ヲ銀行本店ハ逋送スヘシ

第一節 交換所簿記計算ハ都テ
 銀行本店ノ規則ニ照準シ
 毎日卒業ノ後其日迄ノ出
 納総差引ヲ総勘定元帳
 ヨリ抄記シタル計表及日々
 現有金ノ計表ヲ作り其
 用所ニ蔵メ置クヘシ
 第二節 毎水曜日ニハ交換所ノ一任ハ

諸帳面及現金等悉ク調
 査シテ其點檢シタル處ノ計表
 ヲ作り之ヲ銀行本店へ送
 送スヘシ
 第三節 毎月實際報告ハ銀行本店
 ヨリ紙幣寮の上呈スル体裁
 ニ從ヒ翌月三日迄ニ之ヲ作り本
 副二枚ヲ以テ銀行本店へ送

本副二枚
 行本店へ
 へ出スヘシ

簿記計算ハ都テ
本店ノ規則ニ照準シ
業ノ後其日迄ノ出
左引テ総勘定元帳
記シタル計表及日々
並ノ計表ヲ作リ其
蔵メ置クヘシ
日ニハ交換所ニ任

及現金等悉ク調
點檢シタル處ノ計表
テ銀行本店ハ迄
際報告ハ銀行本店
幣寮江上呈スル体裁
五月三日迄ニテ作リ本
ラ以テ銀行本店ハ送

本副二枚以下ノ文ヲ改テ本紙一枚副本一枚ヲ以テ銀
行本店ハ送致シ其本副二枚ハ本店ヨリ紙幣寮
ハ出スヘシニ作ラハク

致シ其本紙ハ本店ヨリ紙幣寮江出スヘシ

第四節損益勘定ハ毎年兩度ト

シ五月十一月ヲ以テ一切ノ勘

定ヲ為シ明細ナル實際報

告及損益勘定表ヲ作

六月廿五日十二月廿五日迄ニテ

本店江送致スヘシ

32

第五節交換所ノ諸簿冊計表其

他ノ諸計算書類ハ極メテ

精確ニ記載シ且簡明ヲ要ス

可シ尤モ諸約定書證書等

形類其他ノ要書ハ堅ク又

ヲ庫中ニ管守スヘシ

第十一條 交換所役員處務上禁令ヲ明ク

第六節 交換所ノ主任其他ノ役員

ハ私ニ交換所ノ有金ヲ費
 シ又ハ之ヲ掠取リ又ハ私ノ費
 用ニ供ス可ラス又主任及ヒ其
 掛々ノ承認ヲ得スシテ預リ券
 ヲ發行シ預リ金ヲ為シ為替
 手形約定手形諸約定諸
 貸附等ヲ為ス可ラス又交換
 所ノ諸簿冊計表報告書

33

其外ノ要書中ニ詐偽ヲ記載
 ス可ラス又私曲ヲ謀リテ官吏
 商會其他ノ者ヲ欺キ及ヒ交
 換所實際ノ検査役ヲ欺キ
 又欺カント謀ル可ラス若此數
 件ヲ犯ス者アラハ國法ニ從テ
 相當ノ處分アル可シ

第ニ節 交換所ノ役負ニ連ナル者ハ其

派出中ハ自家他所ヲ論セス
決テ私ノ商業ヲ為ス可ラス
若交換所ノ名ヲ假リテ自己
ノ利益ヲ謀ルコトアレハ假令如
何ナル處置タリトモ之ヲ不正
ノ所為トナシテ相當ノ罰アル
ハシ

第三節 交換所ノ主任ハ自ラ此條例

ニ悖リ又ハ他ノ役負ヲシテ之
ニ悖ラシム可ラス 若此條例ニ悖
疾シテ其為ニ交換所ノ損失
ヲ引起スコトアレハ之ヲ悖疾セ
シ者ニ償ハシム可シ

第十二條 條例更正ノコトヲ明ニス

第一節 大藏省紙幣寮ノ都合ニヨリ
テ要用ノコトアルカ又ハ交換所ニ

於テ實地施為ノ都合ニ不便
 ノイアレハ何時ニテモ此條例ヲ
 増補シ又ハ之ヲ改革シ又ハ
 之ヲ廢止スルイマル可シ但交換
 所ヨリ此増補又ハ改革ヲ乞
 フキハ其次第ヲ明細ニ銀行
 本店ニ申出テ紙幣寮ノ
 許可ヲ得テ之ヲ行フヘシ

34

第三節然リト云ハ右増補改革廢
 止等ノハ紙幣寮ヨリ之
 ヲ銀行本店ニ示シ交換所
 ノ便否ヲモ推問シ其承諾
 ノ後ニテ之ヲ實施ス可シ
 右之通相定候事
 明治八年 月 日 大藏省

上海交換所試驗年限中損益按算書

東京

第一冊

是ハ各々年内銀凡於貳万円銀貨凡八万円(但四度ヨリ六度位ニ為換ニテ交換ノ積リ)規銀平均七拾貳テールニテ上海ニ於テ引換之ヲ洋銀百弗ニ付七拾貳テール七ノース等ニテ横濱神戸等(為替取組ムモノトシ)其中内銀銀貨合貳拾万円ノ運送費貳千円(但運賃危險受買料トモ千円ニ付金於円ノ割)並ニ積入陸揚入費等凡四拾円(但千円ニ付貳拾弍ノ見積リ)及円銀於貳万円ト紙幣トノ差千貳百円(百円ニ付壹円ノ割)合三千貳百四拾円ヲ引去リ凡純益金見積リ但洋銀相場百弗ニ付運賃百三円七拾弍弍ノ積リ

合金壹萬三千四百七拾圓八拾貳錢四厘

損方

一金三千六百圓也

交換所借家料見積

是ハ確固允金庫附屬シタル中等ノ借家料一月凡三百圓ノ積リ

一金千八百圓也

借庫料見積

是ハ貸金ノ檢當品ヲ預ルタメ倉庫三ヶ所ヲ備置借庫料一月凡五拾円ノ積リ

一金三百六拾圓也

工部局入費割合見積

是ハ道路修繕路燈運卒費等ノ割合一月凡三拾円ノ見積リ

一金千四百四拾圓也

交換入費見積

是ハ支那人等ニ歐米人亦ハ通常交際ニ費ス入用一ヶ月凡百貳拾円ノ見積リ

一金四百百圓也

預リ券製造入費償却割合見積

是ハ規銀在ニ洋銀預券枚數六万千六百五拾枚發行中破損交換用ニ備置ク分三千三百五拾枚合六万五千枚製造入費凡貳千円(但百枚ニ付金三円七角六厘九毛余ノ積リ)ヲ試驗年限五ヶ年ニ割合償却スル一ヶ年分ノ見積リ

一金五百圓也

交換所創立入費償却割合見積

是ハ創立ノ際借家修繕及必用ノ諸器物調代價等初發出張人員旅費ト合金凡貳千五百円ヲ試驗年限五ヶ年ニ割合償却スル一ヶ年分見積

一金六千八百六拾四圓也

役員月給見積

是ハ一ヶ月合計高金五百七拾貳円則左ノ見積

交換所役員及人數月給見積表

役員	支配人	勘定方	勘定方	限面方書記方	支那人	支那人	支那人	支那人
月給	百五拾円	百円	七拾円	倉庫方通年後	手代	小遣	支那人	支那人
人數	壹人	壹人	壹人	貳人	貳人	貳人	三人	四人

一金三百六拾圓也

賄方雇料見積

是ハ一ヶ月壹人金拾円ノ積ヲ以テ三人分一ヶ年合高

一金六百圓也

諸雜費見積

是ハ筆紙墨茶ニ郵便電信料其他一ヶ月凡五拾円ノ見積

一金千八百圓也

賄方費用見積

是ハ食費及炭油其他賄向諸入費一月九百五拾円ノ見積

合金壹萬七千七百貳拾四圓

損益差引

金四千貳百五拾三圓七錢六厘換

二ヶ年目

益方

一金九千四百五拾圓也 利足取立高見積

是ハ初年ノ通抵當貸附ニ運用シタル利足收入高年九分利ノ積リ

一金四千圓也 銀貨交換ニ付差益見積

是ハ銀貨八萬円交換ヨリ生ル利益初年ノ通

一金貳千貳拾圓八拾貳四厘也 円銀 銀貨交換ニ付為替利益見積

是ハ円銀銀貨合貳拾萬円上海ニ於テ規銀ニ引換之ヲ洋銀為替ニ取組ムモノヨリ生ル純益金見積リ初年同断

合金壹萬九千五百七拾圓八拾貳錢四厘

損方

一金壹萬七千七百貳拾四圓也 諸經費見積合高

內譯初年同斷

損益差引

金貳千百五拾三圓拾七錢六厘 損

三ヶ年目

益方

一金壹萬千五百五拾圓也 利益取立高見積

是ハ初年ノ通抵當貸附ニ運用シタル利益收入高但年々割是令利ノ積リ

一金四千圓也 銀貸交換ニ付差益見積

是ハ銀貸八万円交換ヨリ生ル利益初年ノ通

一金貳千百貳拾圓八拾貳錢四厘也 円銀 銀貸 交換ニ付為替利益見積

是ハ円銀銀貸合貳拾万円上海ニ於テ規銀ニ引替之ヲ洋銀為替ニ取組ムモノヨリ生ル純益金見積初年同斷

東
第一國之銀行
合金壹萬七千六百七拾圓八拾貳錢四厘

損方

一金壹萬七千七百貳拾四圓 諸經費見積合高

內譯初年同斷

損益差引

金五拾三圓拾七錢六厘 損

四ヶ年目

益方

一金壹萬三千六百五拾圓也 利足取立高見積

是ハ初年ノ通抵當貸附ニ運用シタル利足收入高但年高割三分利ノ積リ

一金四千圓也 銀貸交換付差益見積

是ハ銀貸八萬圓交換ヨリ生ル利益初年ノ通

一金貳千百貳拾圓八拾貳錢四厘也 円銀銀貸交換ニ付為替利益見積

是ハ円銀銀貸合貳拾萬圓上海ニ於テ規銀ニ引替ヘテ洋銀為替取組ムモノヨリ生ル純益金見積リ初年同斷

合金壹萬九千七百七拾圓八拾貳錢四厘

損方

一金壹萬七千七百貳拾四圓也 諸經費見積合高

內譯初年同斷

損益差引

金貳千四拾六圓八拾貳錢四厘 益

五ヶ年目

益方

一金壹萬五千七百五拾圓也 利益取立高見積

是ハ初年ノ通抵当貸附ニ運用シタル利益是收入高但年々割五分利ノ積リ

一金四千圓也 銀貸交換ニ付差益見積

是ハ銀貸八萬円交換ヨリ生ル利益高初年ノ通

一金貳千百貳拾圓八拾貳錢四厘也 円銀交換有為替利益見積

是ハ円銀銀貸合貳拾万円上海ニ於テ現銀ニ引換ヘ之ヲ洋銀為替ニ取組ムモノヨリ生ル純益金見積リ初年同斷

東京
第一國三銀行
合金貳萬千八百七拾圓八拾貳錢四厘

損方

一金壹萬七千七百貳拾四圓也 諸經費見積合高

內譯初年同斷

損益差引

金四千百四拾六圓八拾貳錢四厘 益

五ヶ年目損益總差引

金貳百六拾五圓八拾八錢 損

右上海交換所試驗年限中損益概算ニ成
座候尤右年限中為替相場都合能相進
圓銀銀債之交換見込ノ高ヨリ相増候ハ其
利益モ隨テ相増可申譯ニテ當銀行ニ於テハ必
其場合ニ相違可申裁ト思想仕候得共右ハ將
來ノ按算ニ付今日確實申上候儀ハ難出来

合計	三萬。四百枚	五萬四千テール
種類	紙口教	洋銀高
壹弗	貳萬五千枚	貳萬五千弗
五弗	四千枚	貳萬弗
拾弗	千五百枚	壹萬五千弗
貳拾弗	七百五十枚	壹萬五千弗
合計	三萬千貳百五十枚	七萬五千弗
貳口合	紙教六萬千六百拾枚	規銀五万四千テール 洋銀七万五千弗

右之通脚座候也

明治八年三月三日

第一國立銀行

